

位 パッタイクンソッド のバランスが絶妙

市小倉北区にある大型複合施設、リバー北九州のタイ・中国料理店「RON」(ロタイ人シェフが本場の味を提供してくれ店の一番人気は、エビ入りタイ風焼きそば「パッタイクンソッド」)。野菜たっぷりで、と甘さのバランスが絶妙。辛さはリクエえてくれる。2位はおなじみ「トムヤムク」のスープにラーメンを入れた4位の「トーマン」もリピーターが多い。ちなみに



タイ語の「クン」はエビのこと。お店の人にメニューの意味を聞きながら食べるのもおいしい。【中国敦二】

パッタイクンソッド (エビ入りタイ風焼きそば)	1150円
ムヤムクン	1000円
イトート (タイ風チヂミ)	1500円
ムヤムラーメン	1200円
RON オリジナルエビチリ	1500円
ムサーブハンウア (タイ風テールスープ)	1500円
ートマンクン (エビ団子)	1500円
んたんめん	1050円
ウパット (タイ風エビ焼きめし)	1200円
グリーンカレーセット	1200円
メニュー、価格の順。12月分、リバー北九州「RON」注文数調べ	



「抱いて寝ると温かい。屋外でも持ち出したい湯たんぽ。エコにもいい」

ぬいぐるみ 愛らしく

井筒屋本店リビ
ンク部の河村泰宏
副部長のオスス
は、ミレナース
ティック・ジャ
ン(東京)のク
マの湯たんぽ。体長
約70センチのぬいぐる
み。クリッとした
目と、ピンクとフ
ラウンの彩りのリ
ボンがかわいい。
背中から湯たんぽ
(800℃以下、ド
イツ製)を入れる
ことができる。

【中国敦二】



井筒屋本店

メイクアップアー
ティストでタレントの
KKOさんがテレビ
番組で紹介し、ドラ
マにも登場するなど
全国的に人気だ。
同社はアロマキャン

クマの湯たんぽ

ドルの販売でも知
られる。社長の土
橋博美さんは北九
州市出身。大の湯
たんぽ好きで「抱
いて寝られる湯た
んぽを」とオリジ
ナルで作った。昨
年に販売。井筒屋
は年末に入荷した。
土橋社長は「冷え
性の女性らに、旅
行やスポーツ観戦
に一緒に連れて行
ってほしい」と話
す。リボンのほか
にチョウネクタイ
やネクタイタイプ
もある。価格は7
980円。

「企業ドック」の極意語る

元氣
GENKI・JIN

システムコンストラクション 清野秀道社長(44)——山下恭二撮影

「元々、大手デベロッパーに勤務していた。ある時、自宅や従業員用のアパートを購入してもらった取引先のメーカーが設計ミスでリコールに追い込まれ、倒産した。経営者は、退職者から超過勤務を訴えられ、慣れない事務作業で仕事がつたかず、設計ミスを見落としていた。世話になった優良企業が、危機管理をおろそかにしたことで倒産したことにショックを受け、「困った時に手助けする危機管理能力が必要だ」と痛感した。勤務のかたわらでリスクマネジメント(危機管理手法)について学び、00年に独立してコンサルタント会社を起業。デベロッパ時代につてをたどりながら取引先を増やした。コンサルタント業務

は「企業に裸で背中を向けさせる医者の診察のようなもの」と表現する。人間ドックならぬ「企業ドック」で内情を調べ、目標を定め、企画を実行してさらにチェックして行動する「PDCAサイクル」を明確に示す。人事の評価制度の設計だけでも500万もの分量の提案になることもあ

る。契約期間も3カ月で終了する企業もあれば、10年目に入る企業もある。多くの会社を見てき、業績の良い会社の営業者がかつての成功経

特徴は「みんなが社内を元気に走り、電話の声のトーンが高くなっている」といふ。ききあっているの、見ていて気持ちがいいところ」と話す。逆に業績の悪い会社は「一

顧客情報の流出など企業が抱えるリスクに対し、危機管理の体制を整え、戦略を立案するコンサルティング業務を手掛ける。拠点は福岡市だが、東京にも事務所を持ち、大手住宅メーカーや通販会社など全国に約40業種・約900社の顧客がいる。一つの重要な事故の前には、299の小さなトラブルがあり、『またか』の連続が『まさか』を生むものです」と危機管理の極意を語る。【辻本貴洋】

経済部です

「金融庁は本気だと分かってもらえるように、副大臣から指示を受けてきました」

福岡市で昨年12月に開かれた地場金融機関向けの「中小企業金融円滑化法」の説明会。

施行したば、バフォーマンス？

苦境の要因は「貸し渋り」「貸しはがし」という声。が、フタを開ければ返済猶予は努力義務に落ち着き、金融機関側からは「パフォーマンスだったのでは」との声が漏れる。

当の中小企業に聞けば、今の

「金融庁は本気だと分かってもらえるように、副大臣から指示を受けてきました」

福岡市で昨年12月に開かれた地場金融機関向けの「中小企業金融円滑化法」の説明会。

施行したば、バフォーマンス？

苦境の要因は「貸し渋り」「貸しはがし」という声。が、フタを開ければ返済猶予は努力義務に落ち着き、金融機関側からは「パフォーマンスだったのでは」との声が漏れる。

当の中小企業に聞けば、今の

